

2025 年 11 月 23 日（日）第二礼拝「異言の祈りの有益」Ⅰコリント 14 章 4 節

異言を話す人は、自分の徳を高めます。預言する人は、教会の徳を高めます。異言で多く祈るなら、神様がその人に預言を与えてくださり、教会の徳は高まり、教会が祝福されます。異言を通して、御霊が深いうめきをもって私たちの霊とともに祈ってくださいます。「徳を高める」とは、「オイコス・デモ」と言い、建てられて上がることを指し、信仰がどんどん建てあげられ、強くなり、私たちが神様ご自身の信仰のように成長することを表します。

第一番目、霊の人に変えられます。聖霊の祈り(異言の祈り)は、私たちを霊的な存在にし、霊の世界に連れていきます。これは大きな祝福です。異言の祈りを通して、私たちは神様の御前に行き、神様の御心に完全になつた祈りに導かれます。自分の願いだけを祈ったり、自分の好きなタイミングで祈ろうとする自我は無くなります。子どもが父親の心を知らず、ただ自分の願いだけを叶えてもらおうと父親にせがむように、自分の願いを達成するためだけに断食して、神様に祈るような祈りから、御霊の祈りへと変えられるのです。また、私たちが異言の祈りをすると、御言葉が私たちのうちに信仰として入り、山をも動かすほどの信仰となります。異言の祈りで神様の御言葉をよく吸収することができるようになるからです。また、思春期の子どもたちが異言で祈るなら、御言葉や両親に従順するようになります。

第二番目、悔い改めです。神様の創造の秩序は、聖霊が私たちの霊に働き、霊が魂に働き、魂が肉に働くという順序です。ところが、人の肉体がサタンの影響を受けて墮落し、魂が霊を無視した結果、人はこの世の価値観を持って自分勝手に生きるようになりました。御言葉が私たちのうちに入り、再び神様の秩序が私たちのうちに建てあげられるには、私たちの自分勝手な生き方や自我や固執した考えを悔い改め、異言の祈りでよく祈る必要があります。御霊は深いうめきによって、私たちのためにとりなし祈っておられ、私たちの魂に教え、悔い改めに導き、私たちが神様の御言葉に従順するように助けてくださいます。

第三番目、感情です。私たちが孤独だと思う時、不安、恐れ、失望、怒りに包まれます。しかし、御霊とともに祈るなら、平安に包まれます。「まことに主は、もつれた舌で、外国のことば(異言)で、この民に語られる。主は、彼らに『ここにいこいがある。疲れた者をいこわせよ。ここに休みがある』と仰せられた…」(イザヤ 28:11~12)「もつれた舌、外国のことば」とは異言です。異言の祈りには、休みがあり、憩いがあり、私たちの抱えるストレスを取り除き、代わりに神様の平安を与えてくださいます。ですから、異言の祈りはとても大切なのです。ブレンド・ピクス師は、トランプ大統領が襲撃される四か月前に、大統領の右耳に銃弾が通ることを預言していました。ブレンド師は大きな教会の掃除をしており、彼の預言を通して多くの人が慰められていました。この預言を語り、神様の奥義を知る秘訣は、一日八十%が異言の祈りということでした。彼は運転中も、仕事中也、一日中、異言で祈っていました。異言は神様の賜物です。どのような時にも異言で祈るなら、平安に包まれ、預言がくだり、神様の奥義を知ることができるのです。アーメン！